

## 7.4 廃棄物

### 7.4.1 調査地域

調査地域は、建設地内とした。

### 7.4.2 調査手法

#### 1) 調査事項

##### ① 予測した事項

- ア 施設の稼働に伴う廃棄物（焼却灰）及び特別管理一般廃棄物（飛灰）
- イ 施設の稼働に伴う汚泥

##### ② 予測条件の状況

金属（鉄分）回収割合

##### ③ 環境保全のための措置の実施状況

#### 2) 調査時点

##### ① 予測した事項

ごみ処理量が最大となる時期（平成30年度）の1年とした。

##### ② 予測条件の状況

予測した事項と同じ時期とした。

##### ③ 環境保全のための措置の実施状況

予測した事項と同じ時期とした。

#### 3) 調査地点

##### ① 予測した事項

建設地内とした。

##### ② 予測条件の状況

建設地内とした。

##### ③ 環境保全のための措置の実施状況

建設地内とした。

#### 4) 調査方法

##### ① 予測した事項

運転管理日報等関連資料の整理による方法とした。

##### ② 予測条件の状況

運転管理日報等関連資料の整理による方法とした。

##### ③ 環境保全のための措置の実施状況

運転管理日報等関連資料の整理による方法とした。

### 7.4.3 調査結果

#### 1) 事後調査の結果の内容

##### ① 予測した事項

##### ア 施設の稼働に伴う廃棄物（焼却灰）及び特別管理一般廃棄物（飛灰）

施設の稼働に伴う廃棄物（焼却灰）及び特別管理一般廃棄物（飛灰）の排出量及び金属の回収量は、表7.4-1に示すとおりである。

ごみ焼却による排出量は、焼却灰で約6,252t、飛灰で約2,147t、合計約8,399tであり、金属（鉄分）の回収量は約206tであった。

表7.4-1 施設の稼働に伴う廃棄物（焼却灰）、特別管理一般廃棄物（飛灰）の排出量及び金属の回収量

	焼却灰・飛灰			残灰中の金属 （鉄分）
	焼却灰	飛灰		
排出量・回収量（t）	6,252	2,147	8,399	206

##### イ 施設の稼働に伴う汚泥

施設の稼働に伴う汚泥の排出量は、表7.4-2に示すとおりである。

平成30年度における本施設の汚泥の排出はなかった。

本施設で発生した汚泥は、ごみピットに投入している。

表7.4-2 施設の稼働に伴う汚泥の排出量

	汚泥
排出量（t）	0

##### ② 予測条件の状況

##### ア 施設の稼働に伴う廃棄物（焼却灰）及び特別管理一般廃棄物（飛灰）

本施設の焼却量及び焼却灰・飛灰、残灰中の金属（鉄分）の回収割合は、表7.4-3に示すとおりである。

焼却量は74,461 t/年、焼却灰の発生割合は8.4%、飛灰の発生割合は2.9%、金属（鉄分）の回収割合は0.3%であった。

表7.4-3 焼却灰、飛灰の排出量及び金属の回収割合

焼却量（本施設）	74,461 t/年
焼却灰発生割合	8.4%
飛灰発生割合	2.9%
金属（鉄分）回収割合	0.3%

## 2) 予測結果と事後調査の結果との比較検討

### ア 施設の稼働に伴う廃棄物（焼却灰）及び特別管理一般廃棄物（飛灰）

予測結果と事後調査の結果との比較は、表7.4-4に示すとおりである。

事後調査の結果のうち、焼却灰、飛灰の発生量については、予測結果と比較して若干の増減があったが、合計量では概ね同程度であった。また、残灰中の金属（回収量）は、予測結果と比較して、約3割の減少であった。

焼却灰、飛灰等の発生割合（焼却灰・飛灰/可燃ごみ焼却量）及び金属の回収割合（金属回収量/可燃ごみ焼却量）は、表7.4-5に示すとおりである。

焼却灰、飛灰等の発生割合（焼却灰・飛灰/可燃ごみ焼却量）は、予測条件及び事後調査結果は、いずれも約11%であった。また、金属の回収割合は、予測条件で0.4%、事後調査結果で0.3%と概ね同程度であり、事後調査の結果における金属回収量の減少は、主にごみ処理量の減少に起因していると考えられる。

表7.4-4 排出量及び回収量の予測結果と事後調査の結果との比較

		排出量・回収量 (t)	
		予測結果	事後調査の結果
焼却灰・飛灰	焼却灰	約 5,590	6,252
	飛灰	約 3,010	2,147
		約 8,600	8,399
残灰中の金属（鉄分）		約 316	206

表7.4-5 予測条件と事後調査の結果における焼却灰等の発生及び金属回収の割合

		予測条件	事後調査の結果
焼却量（本施設）		77,300 t/年	74,461 t/年
焼却灰・飛灰 発生割合	焼却灰発生割合	約 7.2%	8.4%
	飛灰発生割合	約 3.9%	2.9%
		約 11.1%	11.3%
金属（鉄分）回収割合		約 0.4%	0.3%

### イ 施設の稼働に伴う汚泥

予測結果と事後調査の結果との比較は、表7.4-6に示すとおりである。

予測時点では既存施設の汚泥発生量に基づき、汚泥排出量を約39tと予測していたが、本施設では、発生した汚泥をごみピットに投入し焼却処理をしているため、汚泥排出量は0tである。

表7.4-6 汚泥の予測結果と事後調査の結果との比較

	排出量 (t)	
	予測結果	事後調査の結果
汚泥	約 39	0